

第 40 回広島市植物公園植物写真コンテスト入賞作品

賞	画 題	被 写 体 の 種 名	名 前
最優秀賞	ファミリー	バラ	賀中 義隆
特選	太陽の花	ヒマワリ	阿土 縊
	宙	オオオニバス	斉藤 義勝
	華麗	カランコエ	浅沼 美枝
	花色のウエーブ	オカトラノオ	羽多野 恵雄
準特選	女王様と小人達	バラ	大戸 富士恵
	風に乗って旅に出る	ベゴニア	籠崎 悠子
	花見の人	サクラ	山口 保子
	香る黄金の花	スイートアカシア	寺西 考史
	乱舞	ハクモクレン	原田 保徳
入選	ポピーと戯れ	ポピー	清水 洋彦
	春のはじまり	カランコエ	溝口 淳子
	ぼくの花見	サクラ	賀中 春花
	雪の朝	—	賀中 義隆
	ニョキニョキ	セダム(ニジノタマ)	田中 陽子
	うみがめ、みつけたよ	ピレア	笠井 壯一
	舞踏会	バラ	中村 康子
	早春の香り	サクラ	小原 三津枝
	朝陽に照らされて	キク	中本 竜彦
	まっ赤激カーブ	ベゴニア	藤井 信祐
	希望	ポピー	西村 明美
	メルヘン	コスモス	高取 一巳
	優雅	バラ	青木 リツ
	梅雨を彩る	ハナショウブ	高田 良治
	髪飾り	アジサイ	脇田 泰子
	浮き草	ハス	岩下 等
	見守られて	サボテン	辻 良子
	微笑み	ダリア	松本 悦子
	リズムに乗って	サボテン	倉見 千恵子
	薄暮の群翔	サギソウ	広畑 和男
佳作	ラン線入	パフィオペデラム	藤井 陸司
	合唱	オニキリン	向井 千恵美
	華麗	フクシア	川本 真二
	春うらら	ウメ(紅)	大曾根 文平
	3月の一番星	ハナニラ	江崎 利奈
	夢幻	コスモス	江崎 誠司
	異星人	マンサク	川崎 修司
	巨木の舞	フウ	川崎 修司
	染める	コスモス	樽井 竜二
	夏の朝	ハス	徳田 和代
	一輪のブーケ	ダリア	中村 康子
	神秘の宇宙	スイレン	市場 徳男
	イチョウのミラー	イチョウ	吉本 勝利
	コスモス	コスモス	福間 久仁子
	春満開	サクラとツツジ	福間 久仁子
	おとぎの国の街灯	スノーフレーク	秋富 愛毅
	白い小花	ハルジオン	寺西 奈穂美
	花万華鏡	コスモス	川井 二美代
	霜のドレスアップ	フクジュソウ	木下 則利
	あこがれ	ミセバヤ	吉田 穂子

賞	画題	被写体の種名	名前
スナップ賞	コイ・コイ来い	ザイルクライミング	中谷 俊治
	乗れたよ!	オオオニバス	阿土 縉
	花迷路	コスモス	阿土 縉
	お花見	ヤエザクラ	吉田 一志
	六月の情景	アジサイ	藤井 信祐
	もっとちょうだい	サクラ	堀江 久子
	迷路の思い出	コスモス	高取 一巳
	雲・空・花	アキランサス、テランセラ	奥本 啓
	光の乱舞	夜間開園(花と光のページェント)	長沼 辰男
	春真っ盛り	サツキ、サクラ	原田 保徳
カレンダー賞	早春	ウメ	小原 三津枝
	元気いっぱい	コウテイダリア	倉見 千恵子

総 評

今年も昨年の応募数を超える、四季の花々が寄せられ鋭い観察眼に、時間を忘れ園内の開花状況を踏まえながら、プリントを確認させていただきました。主題の花を引き立たせる、背景処理・色調・蕾とのバランス構成力に優れた作品が多く、日頃から熱心に密着取材された作品が上位にランクされたようです。

自然界の写真仕上がりは、主題への光量の明暗差の扱いが最も難しく、構図同様に主役への自然美、アングルを大切に表現していただきたい。

惜しくも準特選になった5点の作品は、園内に咲きほこる自然界を的確なレンズ描写・視点で記録されています。

今年のスナップ部門は、まさに記録に残る素晴らしい映像が寄せられました。

さらに皆さんの「題名表現」は本当に素晴らしく勉強させていただきました。

(二科会写真部会員・全日本写真連盟関西本部委員 秋田隆司)

「百花繚乱」。植物公園は植物園の人たちが慈しみを込めて咲かせた花(被写体)が季節を問わず咲き乱れています。色や形、種類も豊富で何を撮影しようかと迷うほどです。雪の日も雨の日も風の強い日も安全に安心して撮影出来るところが他にあるでしょうか。自然の中で撮る厳しい条件の半分はクリアした状態の中で撮れるのです。

熱帯・亜熱帯の雰囲気を楽しむことができる大温室は改修で華やかなランを撮ることが出来なかったでしょうが、フクシア館、サボテン館などでは楽しい撮影が出来たでしょう。恵まれた環境の中で、いつでもまた来られるからと言った甘い考えは持つべきではないのです。一期一会です。チャンスはその時にしかないのです。時間を戻すことは出来ません。咲ききって旬を過ぎた花を嘆くよりも、多くの蕾を見ながらその花たちがいつ咲くかを予想して改めて挑戦です。写真道という道があるとするならば終わりなき遠い道を歩き続けることなのです。

今回最優秀賞はバラの花、特選のヒマワリ、カランコエ、オカトラノオが多くの応募作の中から選ばれた理由はとても簡単な理由です。旬の花を旬の時期に技巧に走らず、それぞれが持つ花の特徴を素直なアングルで丁寧に、まるで孫を撮るような優しい気持ちで撮られていることです。

写真とは一瞬に自分の心(気持ち)を凍結する作業です。気持ちを入れて撮られた写真だからこそ見る人の感動を呼ぶのです。花に語りかけ気持ちを込めて撮れば素晴らしい作品が撮れると私は信じています。

(芸北写真塾主宰・紺野 昇)

(敬称略)